

# (平成22年度入学生対象)

別記様式1

## 主専攻プログラム詳述書

開設学部(学科)名〔教育学部第一類(学校教育系)特別支援教育教員養成コース〕

プログラムの名称 (和文) (英文)	特別支援教育教員養成プログラム ----- Program in Special Support School Teacher Education
<p>1. プログラムの紹介と概要</p> <p>特別支援教育教員養成プログラムは、特別支援学校教諭一種免許状を取得するための教員養成プログラムであり、基礎資格として小学校教諭一種免許状を取得するものである。</p> <p>プログラムの中の特別支援教育に関する授業科目は、視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱の5つの免許領域に関する科目と、免許領域以外の重複・LD等領域の科目で構成され、それらすべてにわたって履修するとともに、各自が専攻する専修(第一専修:視覚障害教育, 第二専修:聴覚障害教育, 第三専修:知的障害・肢体不自由・病弱教育)に関する授業科目について、さらに重点的に履修することとなっている。</p> <p>本プログラムの目標は、優れた教育実践力を有する教員として、将来特別支援学校等で活躍するために求められる、特別支援教育の理念や歴史、制度、および障害のある児童等に関する心理、生理・病理や指導法等の幅広い知識や技能を修め、専攻する専修分野については、さらに知識や技能の修得をめざした学習を行うことによって、より高い専門性を身につけることである。</p> <p>また、卒業後、大学院に進学することによって、さらに専門性を高めるとともに、本プログラムで取得した特別支援学校教諭一種免許状を基礎として、5領域の専修免許状を取得することも可能である。</p>	
<p>2. プログラムの開始時期とプログラム選択のための既修得要件(履修科目名および単位数等)</p> <p>特別支援学校教諭一種免許状と基礎資格としての小学校教諭一種免許状とをあわせて取得するため、早い時期から専門教育を履修する必要がある。したがって、本プログラム開始(選択)時期は、1年次前期からである。</p>	
<p>3. プログラムの到達目標と成果</p> <p>(1) プログラムの到達目標</p> <p>本プログラムは、5つの免許領域に関して、特別支援教育に携わる上で教員に必要とされる次の事項の達成をめざす。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1) 特別支援教育の理念や歴史、制度などの基礎的な知識を修得する。</li><li>2) 特別支援教育の各領域における教育学・心理学・医学に関する基礎的・専門的な知識を修得する。</li><li>3) 特別支援教育の各領域における基礎的・専門的な指導技術を修得する。</li><li>4) 特別支援教育の実践に寄与できるような創造力や研究能力を身につける。</li><li>5) 特別支援教育を展開する上で必要となる通常教育(初等教育)に関する知識・技能・態度を修得する。</li></ol>	

(2) プログラムによる学習の成果 (具体的に身につく知識・技能・態度)

○知識・理解

- 1) 特別支援教育に携わる上で必要となる理念・歴史・制度等に関する知識・理解が備わっている。
- 2) 実践場面において求められる基礎的な医学的知識を含め、実践を行う上での基礎となる、障害のある児童等の心理的特性に関する知識・理解が備わっている。
- 3) 特別支援教育において行われる実際の指導法に関する知識・理解が備わっている。

○知的能力・技能

- 1) 特別支援教育や専修分野に関する文献、資料、情報を課題に沿って検索・収集し、その内容を読み取ることができる。
- 2) 収集した文献、資料、情報について、課題に沿う形でまとめ、新たな検討課題を設定できる。
- 3) 必要な情報の検索・収集、整理にコンピュータを活用できる。

○実践的能力・技能

- 1) 特別支援教育において必要とされる教育的・心理的な諸検査のもつ具体的な特性を踏まえ、その実施方法の理解と検査結果に基づく教育的な評価ができる。
- 2) 障害を補償する実際的な手段や障害の特性に応じて必要となる手だてについて修得する。
- 3) 障害のある児童等の学習を促すための指導法や効果的に学習を行うための教材・教具の作成法・活用法について修得する。

○総合的能力・技能

- 1) 個人あるいはグループで、研究計画を立案し、それに基づいて的確に作業を実施し、結果をまとめる段階まで遂行できる。(研究力・問題解決力)
- 2) 個人あるいはグループで行う研究において、課題意識を明確にしてそれに向けた持続的な作業ができるとともに、批評に対してその意味するところを的確に捉えて、研究の内容や方向性を柔軟に修正し、まとめていくことができる。(研究遂行力・自己修正力)
- 3) 個人あるいはグループによる研究の発表場面において、発表内容を整理した上で、その成果を明確に伝えるとともに、質疑において建設的に意見を交わすことができる。(表現力・発表力)

4. 教育内容・構造と実施体制

(1) 学位の概要 (学位の種類, 必要な単位数)

本プログラムが提供する学位は、学士(教育学)である。その取得には、本プログラムにおいて実施される授業科目を選択履修することによって修得する128単位を条件としている。(教養教育31単位, 専門基礎科目(初等教育)53単位, 専門科目(特別支援教育)38単位, 卒業研究6単位)

(2) 専修

特別支援教育に関わる教員免許状は、それぞれの免許状に応じて必要とされる専門性も異なっている。そのため、1年次より、第一専修(視覚障害教育)、第二専修(聴覚障害教育)、第三専修(知的障害・肢体不自由・病弱教育)の3専修に分かれて、5つの領域に関する学習とともに、さらにそれぞれの専修分野に関する専門性を深めるための学習を進めていく。なお、専修の振り分けに際しては、各専修とも概ね10名を目安とする。

### (3) 得られる資格等

卒業要件を満たせば、特別支援学校教諭一種免許状（視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者、肢体不自由者、病弱者に関する教育の5領域）および基礎資格としての小学校教諭一種免許状を取得できる。

さらに、教育学部の他のプログラム等を履修することによって、幼稚園教諭免許状、中学校教諭免許状、学校図書館司書などの免許・資格の取得も可能である。

### (3) プログラムの構造

※体系的に理解できる図を別紙2として添付してください。

教養教育は、原則として2年次までに履修する。

専門教育は、1年次から始まるが、多くは2年次から3年次の間に履修する。初等教育に関する授業と特別支援教育に関する授業が並行して進行する。

1年次から専修に分かれる。

教育実習科目は、1年次から開講され、1年次での「特別支援学校教育実習入門」および「小学校教育実習入門」および「特別支援学校教育実習入門」、2年次での「特別支援学校教育実習観察」を履修した後、3年次で教育実習（特別支援学校および小学校）を行う。

卒業研究は、3年次から始まる。

### (4) 卒業論文（卒業研究）（位置付け、配属方法・時期等）

#### ○目的

自らの調査・実験・実践等を通して、特別支援教育に関する研究の方法、資料のまとめ方、論文の書き方を修得する。

#### ○概要

原則として、所属する専修分野に関連する研究課題を3年次修了までに設定し、指導教員の指導の下に研究を進めていく。4年次後期1月末日までに卒業論文として提出し、2月前半期の卒業論文発表会および審査を経て単位認定が行われる。

#### ○配属時期と配属方法

3年次前期の「特別支援教育研究法Ⅰ」および3年次後期の「特別支援教育研究法Ⅱ」の授業において、学生が主体的に決定した指導教員からの指導・助言を得ながら、卒業論文の作成を進めていく。

## 5. 授業科目及び授業内容

### (1) 授業科目名（別紙3及びシラバス参照）

## 6. 教育・学習

### (1) 教育方法・学習方法

専門教育の専門基礎科目は、初等教育教員養成プログラムの教育方法・学習方法に準ずる。

専門教育の専門科目（特別支援教育に関する専門科目）の学習内容は、附属特別支援教育実践セン

ターの教育相談に関わる機会や、障害児・者のボランティア活動等の社会活動に参加することにより深化することができる。

## (2) 学習支援体制

- 1) 本プログラムの運営は、特別支援教育学講座の専任教員、および附属特別支援教育実践センターの専任教員が担当する。
- 2) 授業の履修方法、教員免許取得に関わる指導、成績の確認、その他学習全般に関わる主な指導、および生活、その他に関する相談は、1年次から3年次前期までは、入学時のチューターが担当し、卒業論文の指導教員が決まってから卒業するまでは、卒業論文の指導教員が担当する。
- 3) 主として特別支援教育学講座および附属特別支援教育実践センターの教員により、プログラム担当教員会を組織し、学生の学習支援体制を作る。
- 4) 特別支援学校教育実習は、広島県内の特別支援学校、および附属東雲小学校・中学校において実施する。
- 5) 特別支援教育図書室に、図書・資料、機器等の管理・貸出し、学生と教員との連絡・調整などを担当する事務補佐員を配置する。

## 7. 評価（試験・成績評価）

### (1) 到達度チェックの仕組み

- 1) 授業科目ごとの成績は、秀、優、良、可、不可で判定する。
- 2) 授業科目ごとの成績は、所定の計算法により、GPAとして累積する。
- 3) 学年ごとにGPAを算出し、個人の基本成績レベルを確認できるようにする。
- 4) 各学年で、評価項目ごとに到達度を確定し、個々の達成水準を明示する。

### (2) 成績が示す意味

別紙4を参照。

## 8. プログラムの責任体制と評価

### (1) PDCA責任体制（計画(plan)・実施(do)・評価(check)・改善(action)）

本プログラムは、主として教育学部の特別支援教育学講座および附属特別支援教育実践センターのスタッフにより遂行される。その遂行上の責任は、プログラム責任者（特別支援教育学講座の主任）にある。計画・実施・評価検討・対処は、本プログラム担当教員会が行う。なお、プログラム外からの評価検討・対処は、教育学部内の担当部会により進められ、プログラムの到達度が評価され、勧告が示される。

### (2) プログラムの評価

#### ○プログラム評価の観点

本プログラムでは、教育的効果と社会的効果を評価の観点にする。教育的効果では、プログラムの実施における学生の学習効果を判定する。社会的効果では、プログラムの学習結果の社会的有効性を判定する。

#### ○評価の実施方法

本プログラムは、上記の評価の観点にしたがい、原則として入学して4年を経た年次に、プログラム自体の成果を評価する。

教育的効果に関しては、①本プログラムを学習した学生の到達率（単位充足率）、②教員グループによる総合的な評価によって行う。教員の総合的評価については、本プログラムの到達水準まで各学生が到達したかどうか、学生全体ではどのような割合で到達したのかを調べ、75%以上の達成率があるかどうかを点検する。

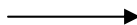
社会的効果に関しては、①教員採用試験の合格率、②関連分野への就職・進学率（教職、障害児・者関連施設等への就職、および教育・福祉系大学院等への進学）によって行う。

#### ○学生へのフィードバック

プログラム担当教員会において、プログラムの評価結果を検討し、内容の改善を行うとともに、その結果を学生指導、授業科目・内容の見直し、下学年のプログラム運営・実施等に反映させる。

プログラムの教育・学習方法

○ 知識・理解



**身につく知識・技能・態度等**

1) 特別支援教育に携わる上で必要となる理念・歴史・制度等に関する知識・理解が備わっている。

2) 実践場面において求められる基礎的な医学的知識を含め、実践を行う上での基礎となる、障害のある児童等の心理的特性に関する知識・理解が備わっている。

3) 特別支援教育において行われる実際の指導法に関する知識・理解が備わっている。

**教育・学習の方法**

1) ～3) の知識・理解は、専門科目に関する講義，あるいは各講義において課すレポート作成などを通して獲得できるようにする。

**評価**

1) ～3) の知識・理解は、各授業で行う試験やレポートなどによって評価する。

○ 知的能力・技能

**身につく知識・技能・態度等**

1) 特別支援教育や専修分野に関する文献，資料，情報を課題に沿って検索・収集し，その内容を読み取ることができる。

2) 収集した文献，資料，情報について，課題に沿う形でまとめ，新たな検討課題を設定できる。

3) 必要な情報の検索・収集，整理にコンピュータを活用できる。

**教育・学習の方法**

1) ～3) の知的能力・技能は，特別支援教育研究法及び卒業論文における個人またはグループによる文献収集や，その整理の過程を通して獲得できるようにする。

**評価**

1) ～3) の知的能力・技能は，特別支援教育研究法の毎回の授業における発言内容やレポート，さらに卒業論文の完成に至る過程によって評価する。

○ 実践的能力・技能

**身につく知識・技能・態度等**

- 1) 特別支援教育において必要とされる教育的・心理的な諸検査のもつ具体的な特性を踏まえ、その実施方法の理解と検査結果に基づく教育的な評価ができる。
- 2) 障害を補償する実際的な手段や障害の特性に応じて必要となる手だてについて修得する。
- 3) 障害のある児童等の学習を促すための指導法や効果的に学習を行うための教材・教具の作成法・活用法について修得する。

**教育・学習の方法**

1)～3)の実践的能力・技能は、主として演習が含まれる授業を通して、修得できるようにする。

また、附属特別支援教育実践センターの教育相談に、指導教員の監督・指導のもとに関わる機会を設け、より実践に即した指導法を修得できるようにする。

**評価**

1)～3)の実践的能力・技能は、各授業で行う試験やレポート、演習における参加状況、取り組みの態度などによって評価する。

○ 総合的能力・技能

**身につく知識・技能・態度等**

- 1) 個人あるいはグループで、研究計画を立案し、それに基づいて的確に作業を実施し、結果をまとめる段階まで遂行できる。(研究力・問題解決力)
- 2) 個人あるいはグループで行う研究において、課題意識を明確にしてそれに向けた持続的な作業ができるとともに、批評に対してその意味するところを的確に捉えて、研究の内容や方向性を柔軟に修正し、まとめることができる。(研究遂行力・自己修正力)
- 3) 個人あるいはグループによる研究の発表場面において、発表内容を整理した上で、その成果を明確に伝えるとともに、質疑において建設的に意見を交わすことができる。(表現力・発表力)

**教育・学習の方法**

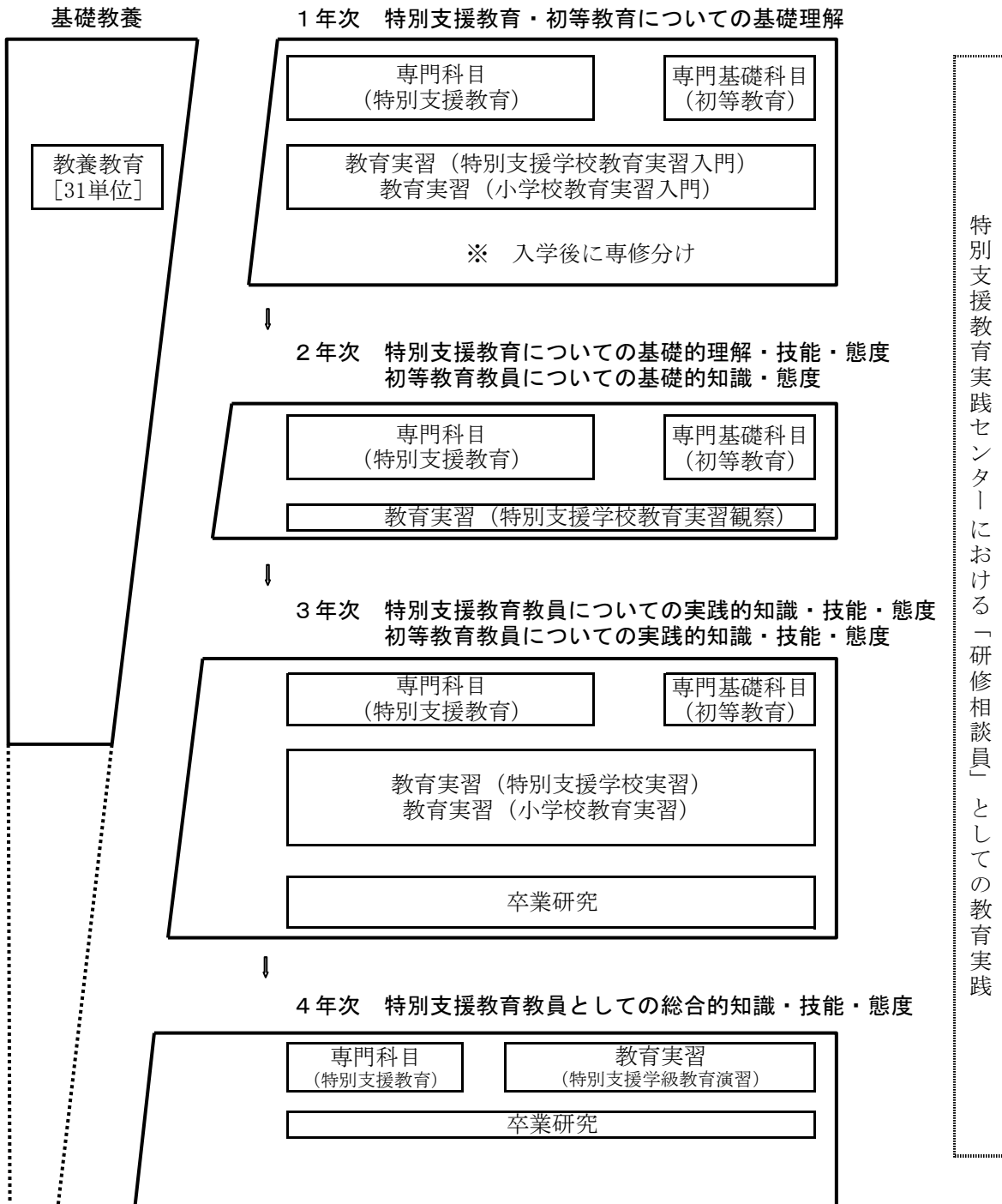
1)～3)の総合的能力・技能は、プログラム全体の総合的な成果として修得していくものであるが、特に特別支援教育研究法や卒業論文指導における指導教員との協議・検討の過程および報告会、発表会において修得できるようにする。

**評価**

1)～3)の総合的能力・技能は、特別支援教育研究法や卒業論文において総合的に評価する。特に、卒業論文の作成過程とその結果において、学生自身がどのレベルまで達成できたかを確認できるようにする。

## 【プログラムの構造】

### 1. プログラムの構造図





## 特別支援教育教員養成プログラム履修表

提供学部：教育学部（第一類特別支援教育教員養成コース）

区分	科目区分	要修得 単位数	授業科目	履修年次									
				1年次		2年次		3年次		4年次			
				前	後	前	後	前	後	前	後		
教養教育	教養ゼミ	2	教養ゼミ	②									
	共通科目 外国語科目	英語	6	コミュニケーションⅠ・Ⅱ	②	②							
		英語以外	4	コミュニケーションⅢ			○	○					
		情報科目	2	ベーシック外国語Ⅰ・Ⅱ	②	②							
	教養コア科目	パッケージ別科目	6	情報活用基礎	②								
		総合科目	2	「パッケージ別科目」の中の 決定された1パッケージから 3科目	○	○							
		領域科目	8	総合科目から1科目			○	○	(○)	(○)			
				日本国憲法1科目2単位 スポーツ科学，運動科学から 1科目2単位	○	○							
	スポーツ実習科目	1	上記以外に4単位履修	○	○	○	○						
				「スポーツ実習科目」から1科目	○	○	○	○					

専門科目	専門基礎科目 (初等教育) [基礎資格：小学校]	45	教職入門		②							
			教育の思想と原理			②						
		53	教育課程論				②					
教育と社会・制度					②							
特別活動指導法					②							
教育方法・技術論							②					
道徳教育指導法							②					
児童・青年期発達論					②							
生徒・進路指導論							②					
教育相談							②					
教職実践演習(幼・小)								①	④		②	
教育実習								①	④			
8	初等国語科教育法						②					
	初等社会科教育法							②				
	算数科教育法							②				
	初等理科教育法							②				
	生活科教育法							②				
	初等音楽科教育法								②			
	図画工作科教育法								②			
	初等体育科教育法								②			
	初等家庭科教育法								②			
	初等国語											
算数					2							
初等社会			2									
初等理科			2									
生活					2							
初等家庭					2							
初等音楽							2					
図画工作							2					
初等体育								2				

専門科目	専門科目 (特別支援教育に関する専門科目)	2		特別支援教育総論	②									
		10	38	②	②	2						1		
				②	②						1			
				②	②	1								
				②	②									
				②	②									
				②	②									
				②	②									
		10	38	②	②	2								
				②	②			2						
				②	②					2				
				②	②						2			
				②	②	2								
				②	②			2						
②	②					2								
②	②							2						
②	②								2					
②	②					2								
②	②									2				
②	②										2			
5				②	②						②			
		②	②											
		②	②											
8		(特別支援教育に関する選択科目)												
		(特別支援教育に関する選択科目)												
3		1	1											
		1	1							③				
		1	1									1		
		1	1											
6	6	①	①											
		①	①											
		①	①									④		
合計		128												

- 備考 1. 履修年次欄の数字は科目の単位数を示す。  
2. 履修年次欄の○は必修科目を示す。

## 到達目標評価項目と評価基準の表

## ○ 知識・理解

評価項目	非常に優れている (Best)	優れている (Modal)	基準に達している (Threshold)	備考 (適用科目名を記載) ※ ( ) 内は履修セメスター
1) 特別支援教育に携わる上で必要となる理念・歴史・制度等に関する知識・理解が備わっている。	特別支援教育に携わる上で必要となる理念・歴史・制度等に関する知識・理解が十分に備わっている。	特別支援教育に携わる上で必要となる理念・歴史・制度等に関する知識・理解がおおむね備わっている。	特別支援教育に携わる上で必要となる理念・歴史・制度等に関する基礎的な知識・理解が備わっている。	別表の通り
2) 実践場面において求められる基礎的な医学的知識を含め、実践を行う上での基礎となる、障害のある児童等の心理的特性に関する知識・理解が備わっている。	実践場面において求められる基礎的な医学的知識を含め、実践を行う上での基礎となる、障害のある児童等の心理的特性に関する知識・理解が十分に備わっている。	実践場面において求められる基礎的な医学的知識を含め、実践を行う上での基礎となる、障害のある児童等の心理的特性に関する知識・理解がおおむね備わっている。	実践場面において求められる基礎的な医学的知識を含め、実践を行う上での基礎となる、障害のある児童等の心理的特性に関する基礎的な知識・理解が備わっている。	別表の通り
3) 特別支援教育において行われる実際の指導法に関する知識・理解が備わっている。	特別支援教育において行われる実際の指導法に関する知識・理解が十分に備わっている。	特別支援教育において行われる実際の指導法に関する知識・理解がおおむね備わっている。	特別支援教育において行われる実際の指導法に関する基礎的な知識・理解が備わっている。	別表の通り

○ 知的能力・技能

評価項目	非常に優れている (Best)	優れている (Modal)	基準に達している (Threshold)	備考 (適用科目名を記載) ※ ( ) 内は履修セメスター
1) 特別支援教育や専修分野に関する文献、資料、情報を課題に沿って検索・収集し、その内容を読み取ることができる。	特別支援教育や専修分野に関する文献、資料、情報を課題に沿って検索・収集し、その内容を十分に読み取ることができる。	特別支援教育や専修分野に関する文献、資料、情報を課題に沿って検索・収集し、その内容をおおむね読み取ることができる。	特別支援教育や専修分野に関する文献、資料、情報を課題に沿って検索・収集し、その基礎的な内容を読み取ることができる。	別表の通り
2) 収集した文献、資料、情報について、課題に沿う形でまとめ、新たな検討課題を設定できる。	収集した文献、資料、情報について、課題に沿う形でまとめ、新たな検討課題を十分に設定できる。	収集した文献、資料、情報について、課題に沿う形でまとめ、新たな検討課題をおおむね設定できる。	収集した文献、資料、情報について、課題に沿う形でまとめ、基礎的な検討課題を設定できる。	別表の通り
3) 必要な情報の検索・収集、整理にコンピュータを活用できる。	必要な情報の検索・収集、整理にコンピュータを十分に活用できる。	必要な情報の検索・収集、整理にコンピュータをおおむね活用できる。	必要な情報の検索・収集、整理にコンピュータを活用する基礎的能力がある。	別表の通り

○ 実践的能力・技能

評価項目	非常に優れている (Best)	優れている (Modal)	基準に達している (Threshold)	備考 (適用科目名を記載) ※ ( ) 内は履修セメスター
1) 特別支援教育において必要とされる教育的・心理的な諸検査のもつ特性を踏まえ、その実施方法の理解と検査結果に基づく教育的な評価ができる。	特別支援教育において必要とされる教育的・心理的な諸検査のもつ特性を踏まえ、その実施方法の理解と検査結果に基づく教育的な評価の能力・技能が十分に備わっている。	特別支援教育において必要とされる教育的・心理的な諸検査のもつ特性を踏まえ、その実施方法の理解と検査結果に基づく教育的な評価の能力・技能がおおむね備わっている。	特別支援教育において必要とされる教育的・心理的な諸検査のもつ特性を踏まえ、その実施方法の理解と検査結果に基づく教育的な評価の基礎的能力・技能が備わっている。	別表の通り
2) 障害を補償する実際的な手段や障害の特性に応じて必要となる手だてについて修得する。	障害を補償する実際的な手段や障害の特性に応じて必要となる手だてについて十分に修得している。	障害を補償する実際的な手段や障害の特性に応じて必要となる手だてについておおむね修得している。	障害を補償する実際的な手段や障害の特性に応じて必要となる手だての基礎的内容を修得している。	別表の通り
3) 障害のある児童等の学習を促すための指導法や効果的に学習を行うための教材・教具の作成法・活用法について修得する。	障害のある児童等の学習を促すための指導法や効果的に学習を行うための教材・教具の作成法・活用法について十分に修得している。	障害のある児童等の学習を促すための指導法や効果的に学習を行うための教材・教具の作成法・活用法についておおむね修得している。	障害のある児童等の学習を促すための指導法や効果的に学習を行うための教材・教具の作成法・活用法の基礎的内容を修得している。	別表の通り

○ 総合的能力・技能

評価項目	非常に優れている (Best)	優れている (Modal)	基準に達している (Threshold)	備考 (適用科目名を記載) ※ ( ) 内は履修セメスター
1) 個人あるいはグループで、研究計画を立案し、それに基づいて的確に作業を実施し、結果をまとめる段階まで遂行できる。 (研究力・問題解決力)	個人あるいはグループで、研究計画を立案し、それに基づいて的確に作業を実施し、結果をまとめる段階まで十分に遂行できる。	個人あるいはグループで、研究計画を立案し、それに基づいて的確に作業を実施し、結果をまとめる段階までおおむね遂行できる。	個人あるいはグループで、研究計画を立案し、それに基づいて的確に作業を実施し、結果の基礎的なまとめができる段階まで遂行できる。	別表の通り
2) 個人あるいはグループで行う研究において、課題意識を明確にしてそれに向けて持続的な作業を行うことができるとともに、批評に対してその意味するところを的確に捉えて、研究の内容や方向性を柔軟に修正し、まとめていくことができる。 (研究遂行力・自己修正力)	個人あるいはグループで行う研究において、課題意識を明確にしてそれに向けて持続的な作業を行うことができるとともに、批評に対してその意味するところを的確に捉えて、研究の内容や方向性を柔軟に修正し、まとめていくことが十分にできる。	個人あるいはグループで行う研究において、課題意識を明確にしてそれに向けて持続的な作業を行うことができるとともに、批評に対してその意味するところを的確に捉えて、研究の内容や方向性を柔軟に修正し、まとめていくことがおおむねできる。	個人あるいはグループで行う研究において、課題意識を明確にしてそれに向けて持続的な作業を行うことができるとともに、批評に対してその意味するところを的確に捉えて、研究の内容や方向性を柔軟に修正し、まとめる基礎的な力がある。	別表の通り
3) 個人あるいはグループによる研究の発表場面において、発表内容を整理した上で、その成果を明確に伝えるとともに、質疑において建設的に意見を交わすことができる。 (表現力・発表力)	個人あるいはグループによる研究の発表場面において、発表内容を整理した上で、その成果を明確に伝えるとともに、質疑において建設的に意見を交わす力が十分備わっている。	個人あるいはグループによる研究の発表場面において、発表内容を整理した上で、その成果を明確に伝えるとともに、質疑において建設的に意見を交わす力がおおむね備わっている。	個人あるいはグループによる研究の発表場面において、発表内容を整理した上で、その成果を明確に伝えるとともに、質疑において建設的に意見を交わす基礎的な力が備わっている。	別表の通り



## 担当教員リスト

担当教員名	担当授業科目等	備考
牟田口辰己	担当授業科目： 視覚障害教育基礎論 視覚障害指導法Ⅱ 視覚障害指導法Ⅲ 視覚障害指導法Ⅳ 特別支援学校教育実習観察 特別支援教育研究法Ⅰ 特別支援教育研究法Ⅱ 卒業論文  研究室の場所：教育学部C棟608 E-mailアドレス：tatsumi@hiroshima-u.ac.jp	
小林秀之	担当授業科目： 教養ゼミ 視覚障害心理学 視覚障害測定・評価演習 視覚障害指導法Ⅰ 特別支援学校教育実習入門 特別支援教育研究法Ⅰ 特別支援教育研究法Ⅱ 卒業論文  研究室の場所：教育学部C棟704 E-mailアドレス：hidekoba@hiroshima-u.ac.jp	
谷本忠明	担当授業科目： 聴覚障害測定・評価演習 聴覚障害教育基礎論 聴覚障害指導法Ⅱ 特別支援学校教育実習観察 特別支援教育研究法Ⅰ 特別支援教育研究法Ⅱ 卒業論文	オムニバス



	<p>研究室の場所：教育学部C棟627</p> <p>E-mail アドレス：ttanimo@hiroshima-u.ac.jp</p>	
林 田 真 志	<p>担当授業科目：</p> <p>教養ゼミ</p> <p>聴覚障害心理学</p> <p>聴覚障害測定・評価演習</p> <p>聴覚障害指導法 I</p> <p>特別支援学校教育実習入門</p> <p>特別支援教育研究法 I</p> <p>特別支援教育研究法 II</p> <p>卒業論文</p> <p>研究室の場所：教育学部C棟705</p> <p>E-mail アドレス：mhyshd@hiroshima-u.ac.jp</p>	オムニバス
落 合 俊 郎	<p>担当授業科目：</p> <p>特別支援教育総論</p> <p>知的障害教育基礎論</p> <p>知的障害指導法 II</p> <p>重複障害教育総論</p> <p>特別支援学級教育演習</p> <p>特別支援教育研究法 I</p> <p>特別支援教育研究法 II</p> <p>卒業論文</p> <p>研究室の場所：教育学部C棟706</p> <p>E-mail アドレス：tochiai@hiroshima-u.ac.jp</p>	<p>オムニバス</p> <p>オムニバス</p>
若 松 昭 彦	<p>担当授業科目：</p> <p>教養ゼミ</p> <p>知的障害心理学</p> <p>知的障害測定・評価演習</p> <p>知的障害指導法 I</p> <p>特別支援学級教育演習</p> <p>特別支援学校教育実習入門</p> <p>特別支援教育研究法 I</p> <p>特別支援教育研究法 II</p>	オムニバス

	卒業論文  研究室の場所：教育学部C棟626 E-mail アドレス：awakama@hiroshima-u.ac.jp	
木 船 憲 幸	担当授業科目： 肢体不自由心理学 肢体不自由教育基礎論 肢体不自由指導法Ⅰ 特別支援学級教育演習 特別支援教育研究法Ⅰ 特別支援教育研究法Ⅱ 卒業論文  研究室の場所：教育学部C棟628 E-mail アドレス：kifune@hiroshima-u.ac.jp	オムニバス
川 合 紀 宗	担当授業科目： 言語障害教育総論 LD等教育総論 特別支援教育研究法Ⅰ 特別支援教育研究法Ⅱ 卒業論文  研究室の場所：教育学部C棟708 E-mail アドレス：nkawai@hiroshima-u.ac.jp	附属特別支援教育実践センター
未 定	担当授業科目：大脳生理・病理	非常勤
未 定	担当授業科目：病弱心理学	非常勤
未 定	担当授業科目：聴覚障害指導法Ⅲ	非常勤
未 定	担当授業科目：聴覚障害指導法Ⅳ	非常勤
未 定	担当授業科目：知的障害指導法Ⅱ	非常勤 オムニバス
未 定	担当授業科目：肢体不自由指導法Ⅱ	非常勤

未 定	担当授業科目：病弱教育基礎論	非常勤
未 定	担当授業科目：病弱指導法Ⅰ	非常勤
未 定	担当授業科目：病弱指導法Ⅱ	非常勤